

同窓會々報

昭和十五年度同窓會役員左の如し。

會長	院長	教頭	庶務部長	辯論部長	文學部部長	會計部部長	運動部部長	購買部部長	幹事	助手
望月日謙	望月日謙	片山隨英	望月舜勝	清水文要	松木本興	今村是龍	加藤鎮明	福島義孝	井上龍英	高橋英正
院下	院下	先生	先生	君	先生	先生	先生	先生	君	君

幹事のことば……

本年度の同窓會の陣容は以上の如く結成され、私達幹事一同は茲に輝かしい皇紀二千六百年の千歳一遇の好期を迎へて希望と感喜に胸を躍らせながら會務の第一線に就きました。自來幾多の困難と戦ひながらも會務の大半を遂行する事が出来得ました。これも偏に會長現下を始めとし、部長諸先生の御指導と先輩各位並に會員諸兄の熱烈なる御後援に依るものと私達幹事一同は、衷心より御禮申上げる次第であります。

各部の足跡を回顧致しますれば、會員の減少に依る豫算の不足や學院昇格を前にして、校舎の改築等により會務遂行上に不自由を來しましたが幹事一同は只ひたすら本會の本分である會員相互の親睦、校風の發揚を主眼として精進努力の一路を歩んでまいりました。

國家の隆昌は健全な教育により可能であります。宗門の興隆發展も又教學の完備に依る事は申す迄もありません。宗祖御入山の聖意を源とし六百五十餘年の間傳はつて來た祖山の教學は其間幾多の盛衰の歴史を殘してまいりましたが、今當に東亞新秩序建設の世紀の大事業を成就せんとしつゝある時にあたり之に恰も應づる如く名實共に搖ぎなき祖山教學の殿堂は實現せられんとして居ります。私達は此の喜びを満喫しながら行學二道を勵んで居ります。現在この幸福に酔う時何物か電光の如く強く心に感んぜられるものがあります。それは申す迄もなく祖山

教學興隆の爲、涙ぐましい献身的盡力をつくされた先輩諸師の熱意であります。私達はこの尊い精神に對し心より感謝の念を捧げると共に此の母校の繁榮を築きあげべき一員たる當面の學徒としての責務を完了すべく只此の一事を念願として居るものであります。

以下各部に亘り御報告申し上げます。

(清水記)

各部記事

◆庶務部

幹事 清水文要

三月八日 昭和十四年度第廿九回卒業式を舉行す、式後送別茶話會並に記念撮影を行ふ。本年度卒業生左の如し。

高等部(十七名)

望月海順	小林學山	下邨顯淨
河端清端	香川是光	永瀧堯憲
小野間春雄	高野順諭	越野教宣
小山田風隆	株田詮精	竹中仙市
新津義尙	佐野全正	守山恭司
武波正芳	森田文暢	

中等部(廿一名)

岩橋光淳 中込義康 黒宮教文
 石川國武 塚原玄淨 大橋健二
 高宮鶴夫 竹谷榮靜 梅原鳳壽
 齋藤鍊忍 村口泰信 松村玄秀
 古屋智妙 吉川藤夫 伊達海順
 西濱行順 中根湛康 天ヶ瀬寛甲
 結城一郎 杉山睿隆 保福順正
 五月六、七、八、三日間 釋尊降誕會道路布教開催(辯論部參照)

五月十三日 新幹事選舉(當選者上の如し)

五月十五日 第二十九回同窓會定期大會開催、午前九時田村幹事開會宣言す、片山副會長より學院前途多事につき本會の使命遂行に一層努力せよよう訓辭あり。次いで正議長に松木本興先生、副議長に福島義孝先生就任す、それより直ちに各部幹事の經過報告に移る。各部への質義も無く十時二十分田村幹事長の解任の挨拶あり。満場拍手を以つて一ヶ年の勞に感謝す。引續き昭和十五年度新幹事を代表し清水庶務幹事の就任挨拶あり。次で清水幹事本年度豫算案を説明し豫算討議に入る。會員減少の爲各部共に苦しき豫算なるに對し不安の聲あり。各部幹事これに對し熱意を以つて進む決心を述べ。續いて建議案の討議に入る。

一、講辯會に對し續行するや否や又は開催日變更等の件辯論部にて從來執行し來れる土曜日講辯會は中學林制度にな